

**立教大学学術推進特別重点資金（立教 S F R）**  
**大学院生研究**  
**2010年度研究成果報告書**

<b>研究科名</b>	立教大学大学院博士後期課程	研究科コミュニティ福祉	専攻コミュニティ福祉学
<b>研究代表者</b>	在籍研究科・専攻・学年	氏 名	
	コミュニティ福祉研究科・コミュニティ福祉学専攻・2年	ケリ・イメルダ 印	
<b>指導教員</b>	所属・職名	氏 名	
	コミュニティ福祉研究科・教授	服部万里子教授 印	
<b>自然・人文・社会の別</b>	自然 ・ 人文 ・ 社会	<b>個人・共同の別</b>	個人 ・ 共同 名
<b>研究課題名</b>	フィリピン介護教育の推進のために		
<b>研究組織</b>	在籍研究科・専攻・学年	氏 名	
	立教大学コミュニティ福祉研究博士後期課程 2年	ケリ・イメルダ	
<b>研究期間</b>	2010 年度		
<b>研究経費</b>	200 千円		

**研究の概要** (200～300字で記入、図・グラフ等は使用しないこと。)

日本において介護現場で研究している外国人介護候補者をどのように介護福祉士に育成するかが大きな課題になっている。日本とフィリピンの経済連携協定(EPA)に基づき、2009年5月来日したフィリピン人候補者が半年間の日本語研修を終え、2009年11月から現在全国の介護現場で介護実習を開始している。

介護施設でのフィリピン人候補者の受け入れはまだ始まったばかりであるが病院や介護施設の職員はフィリピン人候補者が日本の介護現場に定着できるのかなど不安がある。

このような状況において、フィリピン人介護候補者の介護福祉士資格取得に向けた取り組み状況を把握し、その課題を明らかにすることは日本における介護福祉士教育との課題でありフィリピン人候補者を介護実践者として育てることにより、介護人材不足に対応する重要な課題である。

**キーワード** (研究内容をよく表しているものを3項目以内で記入。)

[ 介護 ] [ 教育 ] [ 外国人介護者 (JPEPA) ]

**研究成果の概要** (図・グラフ等は使用しないこと。)

日本とフィリピンの経済連携協定 (EPA) に基づき、2009 年 5 月来日したフィリピン人候補者計 173 人が半年間の日本語研修を終え、2009 年 11 月から全国の介護現場で介護実習始めている。

外国人介護候補者の育成に関する研究は始まりつつある。そこで本研究はフィリピン介護候補者に対して国家試験合格に向けた取り組みに絞って調査を行い、現状の取り組み状況と課題を明らかにした。

調査票による調査内容では日本の介護福祉国家受験に向け三つの課題を取り上げた：

- ① 日本語の勉強の内容と時間、その課題の抽出。
- ② 日本の介護福祉士の試験問題に関する認識状況に関する実態把握。
- ③ 介護技術に関して介護現場でぶつかった課題の抽出。

フィリピン介護福祉士候補者に対する日本語教育及び介護教育の必要性が出来てきたが、介護候補者が日本語研修及び介護現場で就労・研修に関わる日本の介護教育、介護技術、日本の文化をどのように行われているか。また、それに関してどのような課題があるかについて研究していた。

2010 年度の計画に沿って目的を達するためいくつかの国際学会と国内学会で発表することが出来た。①第 4 回 2010 年ソーシャルワーク及び社会開発合同世界会議国際ソーシャルワーカー連盟 (IFSW) 世界ソーシャルワーク学校連盟 (IASSW) と国際社会福祉協議会 (ICSW) 等と合同で、日本とフィリピンの文化を理解するため、現在、日本の社会での生活文化や習慣などを研究し、日本とフィリピンの生活の中に生きている文化の背景について発表した。②日本の介護福祉士の国家試験に合格するため、介護福祉士の試験問題に関してどのような内容や仕組みがあるかについて介護福祉士の仕組み、組み合わせ、文字上の問題や障害になることや特徴を明らかにした。そのことに関しては第 9 回研究大会日本ケアマネジメント学会で、日本の介護福祉士国家試験に関わるフィリピン介護職に対する障壁に関する発表出来た。しかも、介護に関わる法的な面では、日本とフィリピンの介護に関わる法的な違いを明らかになった。それが日本社会医学会で発表した。

③介護の専門的な言葉の障壁に関して理解し易くなるため、共同研究でフィリピン介護候補者に対して介護の専門的な言葉が日本語 (漢字、カタカナ、平仮名) で書いてあり、介護福祉士国家試験をもとにそれらの言葉が英語とフィリピン語に意味付け、介護の辞書を作った。それに関して世界日本語教育大会 (ICJLE) では国際共同編集による介護専門辞書を組み入れた読解支援システムを研究し発表できた。④外国人の介護者が日本に受け入れの意見に関しては特にフィリピン介護候補者が、彩の国にいきがい大学蔵学園の交流では外国人に望むことについて発表した。そこで年配達との交流があってフィリピの介護者が日本の施設に受け入れについての理由を対話することが出来、また、年配達の意見やアドバイス等についてアンケートを行った。それから、立教大学コミュニティ福祉学会第 3 回年次大会でフィリピン介護福祉士候補者の現状と課題を発表した。

全国学会以外は神田外国語大学異文化コミュニケーション、フィリピンにおける日本語・介護教育の現状を発表し、そこで日比 (JPEPA) に関する日本人の研究者等との交流やネットワークも出来た。

**アンケート調査**

2010 年 10 月～2011 年 1 月にかけてアンケート調査を行った。対象は、第一回目の就労コースで 2009 年から施設機関で就労・研修を受けているフィリピン介護候補者であった。調査方法は、事前に電話で連絡し、アンケート調査の目的を説明し、アンケートの協力の許可を得るための依頼を施設長に行い、許可を得た全国の介護福祉受け入れ施設を対象してアンケート用紙を配布した。アンケート用紙は施設からフィリピン介護福祉士候補者に配布してもらい、介護福祉士候補者が配布回答し、返信用封筒で直接郵便回収を行った。

## 研究成果の概要 つづき

受け入れ施設に送付介護候補者に対象し、介護現場にかかわる全ての力に送る受け入れ施設は以下の通りであった。

### 都道府県

北海道 2 名、青森 2 名、福島 4 名、栃木 5 名、千葉 15 名、東京 17 名、神奈川 14 名、新潟 2 名、山梨 2 名、長野 3 名、岐阜 6 名、静岡 13 名、愛知 4 名、京都 8 名、大阪 22 名、兵庫 6 名、和歌山 3 名、鳥取 4 名、福山 7 名、広島 12 名、山口 5 名、徳島 11 名、愛媛 4 名、高知 8 名、大分 2 名、鹿児島 1 名 合わせ 190 名。

しかし、70 箇所の受け入れ施設で介護就労・研修を受けているフィリピン介護候補者が 70 名を対象として行いとなって、回収率は 48%であった。

### ヒアリング調査

「日本の介護現場におけるフィリピン介護候補者に対する就労・研修の現状に関する調査報告」のアンケート結果もとに質問内容を深めることが目的であり、2011 年 2 月 23 日から 3 月 18 日にかけて 5 か所（千葉（1 か所）神戸（1 か所）、大阪（1 か所）、静岡（2 か所）の受け入れ機関に訪問し、ヒアリング調査を行った。

対象者は、第一回目就労コースにおいて受け入れ機関で就労・研修を受けているフィリピン介護候補者が 9 名である。方法としては、事前に受け入れ機関の担当者に電話で連絡し、了解を得て、ヒアリングの目的を説明し、協力を得た。その後、訪問し、直接ヒアリングを一人につき 30 分程度行った。

ヒアリングアンケート結果により、明らかになったことは：

- ① 日本語の勉強の内容と時間、その課題の抽出。
- ① 日本の介護福祉士の試験問題に関する認識状況に関する実態把握。
- ② 介護技術及びコミュニケーションに関して介護現場でぶつかった課題の抽出

**研究発表** (研究によって得られた研究経過・成果を発表した①～④について、該当するものを記入してください。該当するものが多い場合は主要なものを抜粋してください。)

- ①雑誌論文 (著者名、論文標題、雑誌名、巻号、発行年、ページ)
- ②図書 (著者名、出版社、書名、発行年、総ページ数)
- ③シンポジウム・公開講演会等の開催 (会名、開催日、開催場所)
- ③ その他 (学会発表、研究報告書の印刷等)

- ①
1. ケリ・イメルダ、フィリピン介護福祉士候補者の現状と課題、立教大学コミュニティ福祉学研究科紀要、第9号、2011年3月、29～39ページ
- ②なし
- ③
1. 2010年ソーシャルワーク及び社会開発合同世界会議国際ソーシャルワーカー連盟(IFSW)、2010年6月10-14日、香港、中国
  2. 世界日本語教育大会(ICJLE)、2010年7月31～8月1日、台北
  3. 神田外国語大学異文化コミュニケーションシンポジウム、2010年2月13日～13日
- ④
1. 第51回日本社会医学会、2010年7月3～4日、関西福祉科学大学、大阪
  2. 第9回研究大会日本ケアマネジメント学会、2010年8月29～30日、立教大学新座
  3. 第3回立教大学コミュニティ福祉学会、2010年11月14日、立教大学新座
  4. 第15回日本在宅ケア学会、2011年3月19～20日、県立広島大学、広島